

石川県音楽文化振興事業団×東京芸術劇場 共同制作公演 東京芸術劇場 シアターオペラ vol.8
F.レハール 喜歌劇『メリー・ウィドウ』全幕

Interview ソプラノ 小林沙羅
瑞々しい歌と踊りで舞台に「もう一つの華」を

新星ソプラノとして東京芸術劇場に現れては7年。

ウィーンを拠点に欧州と日本で舞台に立つ

小林沙羅が、ウィンナ・オペレッタの

楽しさを朗らかに語る!



©写真 野

昔の恋人で今は富豪の未亡人ハンナと、赴任先で再会した外交官ダニロ。その大人同士の熱い駆け引きを甘いワルツが彩る《メリー・ウィドウ》では、パリジャンに惹かれる人妻ヴァランシエンヌもドラマに華を添える一人。演じるソプラノ小林沙羅が役柄の魅力を存分に語る。

「美人で裕福なハンナに憧れる一方で、ヴァランシエンヌは、男爵夫人としての自分の立場に誇りも抱いているようです。でも、彼女は明るくて楽しいことが大好き。若いカミーユとのロマンスには心揺れますし、カンカンを踊るシーンもあるといった活発な女性です。物語の中心はハンナとダニロのやりとりですが、そこにヴァランシエンヌの存在がスパ

イスのように効いてくればと思います!」
幼少時からバレエを続けた小林は、踊りながら歌うシーンが大好きとのこと。「体操部に居たこともあり側転も得意です!(笑)。…音楽面では、ヴァランシエンヌのパートには二重唱が多いですが、オペレッタのデュエットだと声を重ねるよりは歌い合うといった部分が支配的で、まさに歌でもあり会話でもあるなど感じます。また、動きもかなり入りますので、芝居的な要素が強く乗ってくる曲が多いですね。…《メリー・ウィドウ》は作品自体が本当に賑やかなので、皆さまも余り肩ひじ張らずに(笑)、そのまま楽しんで頂ければと思います。お馴染みのメロディもきつと多いでしょう。ちなみに、今回は海外の歌手も参加するので、

台詞は英語でのやりとりが中心ですし、歌はオリジナルのドイツ語で歌います。字幕は勿論付きますから初めての方にも親しみ易いと思います。演出の茂山童司さんがどんな衣裳を着せて下さるのか、私も今から楽しみです」

特別出演の名花メラニー・ホリディとは、前回の《こうもり》でも共演した仲。

「メラニーさんは前回、リハーサルから私の歌を聴いて下さり、歌い直しへの細かいアドバイスなどたくさん与えて頂き、『貴女は身体も動かし、これからオペレッタも含めいろいろ歌ってね』と励まして下さいました。ですので、今年もご一緒出来るのが本当に嬉しいのです。私が直に知るウィンナ・オペレッタの華やかさを、皆様に存分に味わって頂けるよう、楽しく演じたいと思います!」

取材・構成:岸 純信(オペラ研究者)

2月22日(日) 15:00開演
コンサートホール

指揮:ミハエル・バルケ
出演:セバスチャン・フップマン/小林沙羅/
ペーター・ボーディング/小川里美/
ジョン・健・ヌッツォ ほか
管弦楽:読売日本交響楽団
合唱:東邦音楽大学合唱団
演出&台本:茂山童司
金沢公演:2月28日(土)金沢歌劇座
オーケストラ・アンサンブル金沢(管弦楽)

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)
公益財団法人石川県音楽文化振興事業団/金沢歌劇座(公益財団法人金沢芸術創造財団)
助成:平成26年度 文化庁劇場・音楽堂等活性化事業(共同制作事業)

詳細はP14へ

パイプオルガンコンサートVol.19 ~小糸 恵 オルガン・リサイタル~

3月20日(金) 19:00開演 コンサートホール

詳細はP15へ



オルガン:小糸 恵

プログラム等詳細については、決まり次第公式HPにてお知らせいたします。

スイスで光り輝く異才が奏でるオルガンの魅力

Kei Koitoの名で知られる小糸恵は京都の生まれ。マリークレール・アラン亡き後、世界で最も注目される女流オルガニストだ。東京芸術大学オルガン科を卒業して、ジュネーブ高等音楽院に学び、活動の拠点をスイスに構えた。天賦の才はローザンヌで花開き、同地の高等音楽院教授、パッサ・フェスティバル芸術監督と要職に就任。マスタークラスや国際コンクールの審査員としても世界を駆けめぐ。深い研究に裏打ちされた正統的パッサ演奏に定評があるが、

長年月かけて蓄積されたルネサンス・バロックからロマン派・現代に至るまでの多彩なレパートリーを誇る。いまや世界に名を轟かす東京芸術劇場のルネサンス・バロック・モダン3種類の回転式オルガンを、世界の小糸がどのように駆使するかが見どころ聴きどころ。ヨーロッパ伝統のダンスリズム、ゴシック教会で捧げる厳かな祈り、伽藍を満たす壮麗な響き。ヨーロッパ500年の粋を一気に味わえるのだ。

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) 助成:平成26年度 文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

東京芸術劇場&ミュゼ川崎シンフォニーホール共同企画 第4回 音楽大学フェスティバル・オーケストラ

3月29日(日) 15:00開演 コンサートホール

詳細はP16へ



ユベール・スターン

指揮:ユベール・スターン
管弦楽:音楽大学フェスティバル・オーケストラ
(首都圏9音楽大学選抜オーケストラ)

参加音楽大学

上野学園大学、国立音楽大学、昭和音楽大学、洗足学園音楽大学、東京音楽大学、東京藝術大学、東邦音楽大学、桐朋学園大学、武蔵野音楽大学

グリンカ/歌劇『ルスランとリュドミラ』序曲
レスピーギ/交響詩『ローマの松』
ムソルグスキー(ラヴェル編曲)/組曲『展覧会の絵』

3月28日(土)15:00開演 ミュゼ川崎シンフォニーホール

明日のスター演奏家はここから生まれる

東京芸術劇場とミュゼ川崎シンフォニーホールとの連携によって開催され、首都圏の音楽大学で学ぶプロの卵たちがフレッシュな演奏を披露する『音楽大学フェスティバル・フェスティバル』。従来の8大学に加え、2014年度から上野学園大学を加えた9大学が11~12月にそれぞれ名演を聴かせた。そして2015年3月、その選抜メンバーによって結成される「音楽大学フェスティバル・オーケストラ」が総決算としてコンサートを行う。

演奏されるのはムソルグスキー(ラヴェル編曲)の「展覧会の絵」ほか、全楽器・パートが活躍できる最高級のラインナップ。実は2011年に震災で中止となった演奏会のプログラムなのだ。未来のクラシック音楽シーンを担う彼らと共に若々しい音楽を作り上げるべく指揮台に立つのは、10年間にわたって東京交響楽団の音楽監督を務めるなど、百戦錬磨のマエストロであるユベール・スターン。チケットがリーズナブル価格であることもうれしい。

主催:音楽大学オーケストラ・フェスティバル実行委員会/東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)/ミュゼ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ) 助成:公益財団法人ロームミュージックファンデーション/平成26年度 文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

芸劇&読響 0才から聴こう!!春休みふれあいコンサート

3月30日(月)【1回目】13:30開演/【2回目】15:30開演 コンサートホール

詳細はP16へ



梅田俊明(指揮) 中井美穂(ソプラノ) 鷺尾麻衣(ソプラノ)

指揮:梅田俊明 ナビゲーター:中井美穂
ソプラノ:鷺尾麻衣
管弦楽:読売日本交響楽団 (構成演出:吉田雅之)
チャイコフスキー/歌劇『エフゲニ・オネーギン』から『ボロネズ』
ジ・ストラウス2世/ポルカ『クラブフェンの森で』Op.336.ワルツ『春の声』
ストラヴィンスキー/サーカス・ポルカ
アンダーソン/ワルツ『キャット』
モーツァルト/ドイツ舞曲K.600から第5曲ト長調『カナリア』、
歌劇『コジ・ファン・トゥッテ』から
デスレーナのアリア『女が15歳にもなったら』
チャイコフスキー/バレエ音楽『くるみ割り人形』から『花のワルツ』

小さなお子様も入場できる楽しいコンサート

「子供を預けることなく気軽にコンサートが聴けたらいいのに」「子供たちにも早くからオーケストラを聴かせたい」。そんな声がますます高まる中で行われてきた『0才から聴こう!!春休みふれあいコンサート』が、2015年も開催される。題名の通り0才児から入場オーケストラという、都内でもまだ稀なコンサート。今回は動物をモチーフにした音楽やいろいろなダンスの曲などが演奏され、親子や家族そろって楽しめる内容だ。

クラシックは静かに、と気を遣い過ぎなくても大丈夫。音楽に合わせて笑ったり歌ったりしながら、オーケストラの音にも親しめるはず。フリー・アナウンサーの中井美穂さんによる楽しいガイドもあって、クラシック初心者でも安心だ。子供たちだけではなく、毎日を忙しく過ごしてゆっくりと音楽を楽しむ時間もない!というママたちにもうれしい企画。2才児までは「ひざの上なら無料」であるため、お財布にもやさしい。みんなで誘い合い、楽しい1日を。

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) 事業提携:読売日本交響楽団 助成:平成26年度 文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

世界のマエストロシリーズvol.3 小林研一郎&読売日本交響楽団

4月24日(金) 19:00開演 コンサートホール



小林研一郎(指揮) 小川里美(ソプラノ) クリスティーナ・ズリツカ(メゾソプラノ)

指揮:小林研一郎
ソプラノ:小川里美
メゾソプラノ:クリスティーナ・ズリツカ
合唱:東京音楽大学合唱団
管弦楽:読売日本交響楽団
マーラー/交響曲第2番 八短調「復活」
[チケット料金]
S席6,500円/A席5,500円/B席4,500円
C席3,500円/D席2,500円

“炎のコバケン”がマーラーの世界へ誘う

東京芸術劇場と読売日本交響楽団による『世界のマエストロ・シリーズ』。第1回は豪腕のスコロヴァチェフスキ、第2回は慈愛のエリシュカという2人のヴェテラン指揮者が登場して好評を博した。第3回は“炎のマエストロ”という愛称でもおなじみ、小林研一郎が指揮台へ登場し、得意とするマーラーの交響曲第2番「復活」を演奏する。2015年で75歳となるマエストロだが、そのパッションと気迫、音楽を深く掘り下げてドラマを作り上げるエネルギー

は底なしだと言えるだろう。マーラーの「復活」は後半に声楽が加わる感動的な交響曲であり、2人の女声ソリストと合唱が深遠かつ情熱的な歌を聴かせる。衝撃的な曲の冒頭から展開されるドラマや、さまざまな感情をマエストロは全身全霊で操り、壮大な世界に仕上げていく。聴いているこちら思わず身を乗り出すほど、小林の指揮姿は迫力満点なのだ。ぜひ、一期一会の音楽体験を。

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) 事業提携:読売日本交響楽団